

奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民投句  
令和元年十月度 入選句（投稿総数三千二十八句・一般投句数七百二十四句）

特選

ビー玉は少年の音ラムネ飲む 大垣市 田口 貞善

少し廃れていたラムネだが、このところ復活したようだ。独特の形の瓶。飲むとき、なかのビー玉が鳴る。さわやかな清涼水を仰ぎ飲む少年の喉ぼとけと汗。鳴るビー玉を少年の音と言いつ切ったところが見事。

薄野や日の匂ひする道祖神 大垣市 吉田 てるみ

村へいく途中の芒が原だろうか。その道筋の辻ある道祖神、ふと見つけて手を合わせる作者。田や道路の改良や拡張は、道祖神などの野仏をどんどんを追いやる。たしかに辻の仏は日の匂いがするようだ。芒原とともに懐かしい光景だ。

伊吹嶺のよく見ゆる朝大根蒔く 安八郡神戸町 高橋 日出美

秋の彼岸が過ぎると、冬野菜の種蒔きが始まる。蒔き時を思索していた朝、とりわけ、伊吹山がはればれとよく見え、大根を蒔くと決める。澄んだ空気と黒々としたふくよかな土のなかの作者の姿がみえてくる。気持ちの良い句。

秀逸

汀女忌や腕まくらして読みきかせ 大垣市 清水 迪子

ラムネ飲む喉元棒のごときもの 東京都世田谷区 関戸 信治

立て終へし畝のふつくら夕月夜 養老郡養老町 田中 紫香

無愛想な猫ゆらしゆく水引草 大垣市 秋山 くに子

水澄むや藻の影長くむすびの地 愛知県岡崎市 佐藤 邦子

輪中ゆく銀河の映る水とゆく 大垣市 神野 武彦

軒下の闇を揺さぶる吊し柿 大垣市 高木 歌佐

西日入る厨にかすか酢の匂ひ 大垣市 村瀬 利明

入選

新米の沸々と香に目覚めたり  
 最終のバスに間に合ひ望の月  
 ロープルーウェイ秋追いかけて天空へ  
 灯台に秋の日傾ぐ川湊  
 峠茶屋越へて近江の芒原  
 秋の雨郵便バイクの鈍き音  
 芒の穂やさし撫でゆく風の神  
 ゆるやかに巨船出てゆく秋の潮  
 読み了へてより気付きをり虫の声  
 すがりたる薬師詣での萩の群れ

不破郡垂井町 高木 治子  
 大垣市 和田 勝子  
 愛知県碧南市 古井 恵  
 岐阜市 萬 里  
 福井県敦賀市 山田 美千代  
 養老郡養老町 山田 順子  
 不破郡垂井町 児玉 昌巳  
 大垣市 小林 研  
 大垣市 早崎 美弥子  
 不破郡垂井町 傍島 法苑

入選

缶けりの歓声秋の空へ行く  
 穂芒の夕日に解けて光りをり  
 秋桜の一束となり風なびく  
 川舟に水かげろふや鴨来たる  
 秋蝶のはらはらと来てひらひらと  
 反故にする駄句の数々獺祭忌  
 晩学のときにもどかし秋灯下  
 竜淵に潜みゴリラの胡座かな  
 食卓は妻の文机秋灯火  
 放牧の馬の動けば動く霧

大垣市 娑 婆  
 不破郡垂井町 中西 弘子  
 大垣市 松岡 みつ  
 愛知県日進市 都合 ナルミ  
 栃木県那須塩原市 垣内 孝雄  
 兵庫県神戸市 岸下 庄二  
 三重県四日市市 後藤 允孝  
 兵庫県神崎郡 山崎 ぐずみ  
 大垣市 森 茂寿  
 福岡県福岡市 大津 英世

選者吟

枯れを待ち日暮れ待ちをりいぼむしり

さち子